大連・旅順・瀋陽探訪　その３　(南賢司)

さて３日目(9 月 2 日)です。初日に駅前の旅行社で旅順一日ツアーを申し込めていなかった私は、旅順に行ってうまく観光地を回れるかは不安でしたが、一応、瀋陽から大連に帰ってきたときに、旅順行の切符を購入しておきました。ってな訳で、３日目も早朝からの出発です。

今日も電車の話をしておきましょう。中国の電車の切符にはいろいろありますが、一般的には寝台車とか指定席とかになると思います。でも、「無座」っていう切符もあります。その名の通り、「席が無い」わけです。かつての私は勇猛果敢であったので、北京から西安ぐらいまで、たぶん夜出発して朝方着いたので８時間ぐらいはあったと思いますが、「無座」で行ったことがあります。「無座」のポイントは、人の席かも知れない席にあらかじめ適当に座っておくことです。中国では知らない人が自分の座席に座っていることなんてざらです。席に着いて知らない人がいるから退いてくださいって言うと、「俺は窓際が好きなんだ、お前は通路沿いに座れ」って勝手に席を交換させられました。座席の感覚が緩いんですよ、日本よりも。だから「無座」でも座っておいて、人が来るまでできるだけ長く座ろうとした方がいいですね。退かされたら別の席に移動です。この作戦で、ほとんどの時間、北京から西安まで座り続けることができましたよ！この思い出があるので、今回の旅順までの２時間半も席を見つけてできるだけ居座ってやろうと意気込んで乗ってみました。すると、思いもよらずガラガラなのです。拍子抜けとはこのことですね。「無座」の分際で寝台ベットを使ってやりました！あと、ちなみに切符の値段は「無座」だと 120 円くらいです。大阪から名古屋ぐらいまでの距離があるのに(笑)。

ながーい各駅停車の旅が終わるとようやく旅順駅に着きました。なかなかきれいな駅ですよね。ガーデニングの意味は分からないですけど。何か新しいスポーツのような気もしないわけもない…(笑)。ひとまず、車中で拾った旅順のガイドマップを頼りに、２０３高地へ向かうバスに乗ることにしました。バスの難しいところは、目当ての駅にどれくらいの時間でつくことが分からないことと、目当ての駅の名前の発音が聞き取りにくいということです。だから、運転手におよその時間を聞き、駅に着けば教えてもらうようにしてもらいました。

大連駅構内のコンビニ的なところ

昼ご飯用に購入

補助いすではひまわりの種を食べるのが主流

勝手に使用した寝台ベット

車窓から眺める２０３高地

旅順駅まで乗ってきた電車

旅順駅

センスあふれるガーデニング

２０３高地への最寄りバス停「三高中」

工事現場のスローガン(ストイック過ぎ！)

運転手の温かい対応のもと、最寄り駅の「三高中」駅に降り立ちましたが、ここからも全然方向が分かりません。道行く人に歩いていく方向を聞き、向かうことにしましたが、歩けど歩けど到着しません。きっと、バスに乗って２０３高地を訪れるということ自体が珍しいのでしょう。みなさんはちゃんと旅行社でツアーを申し込んでくださいね。どこまでも続く農村地帯とどこまでも続く工事現場を越えていき、45 分ほど歩いてようやく到着しました。ふぅ～。でも、本当の苦しみはここからですよ。見てください、遠い遠い２０３高地を(泣)。ちなみに、月曜日なので観光客は誰もいません。人っ子一人いない道のりをただただ修行のように上っていきます。前日と前々日に歩き回っていたので、すでに足の指にはいたるところにバンドエード。しかも何が怖いって、急に蛇が出てきて噛まれでもしたらえらいことですよね。誰にも助けを求められないまま、日露戦争でもないのに２０３高地で死んでゆくのですよ。ほんとにこれが死因ならあの世で乃木希典将軍に「まじでっ！？」とか言われかねません。だから難を逃れるために速歩きですよ、速歩き。そんな焦りと疲労の中、一筋の光が、いや、人の姿が目に飛び込んできました。

来たぜ２０３高地！

遠いよ～

現代アート

人影発見！

これを利用しないわけはないと考えて、急いで登って二人の後ろ数メートルの距離を維持して登り続けました。これで何かあったら助けを求められますよね。安心、安心。そして、やっとのことで爾靈山(にれいさん)と書かれた塔に到着！しばし２０３高地の写真をご堪能あれ。

２０３高地から旅順港を臨む

塔

観光用に置かれている砲台

確かに、日本軍がこの２０３高地を確保することで、旅順の戦いを有利に進めることができたんだなーと勝手に感動していると、さきほどの２人の人物が日本語で会話していることに気づきました。ここで、前々回に書いていた内容に誤りがあることをお詫びします。日本人を初日以外に見なかったと書きましたが、ここで日本人を見たことを忘れていました。ごめんなさい。話を戻すと、この２人のうちの男性は日本人観光客で、もう１人は日本語を専攻している大学生でした。旅行社が実施している旅順ツアーなどは、日本語が堪能な中国人ガイドが付くことが多いので、今回もこのケースのツアーで来ていたみたいです。一応、軽く、「私も実は日本人なんですー」とか挨拶をして２０３高地を降りることにしました。

ちょうど降りる道すがらに土産店があったので寄ってみました。ってか、当然寄りますよね。扇子やらＴシャツやら何かと色々売っていましたが高かったのであまり一杯買わず、Ｔシャツぐらいにしておきました。何を意味しているかはっきり分かりませんが、戦争でたくさんの血が流されたんだよって感じのＴシャツを買いました、そして、研伸館の国語科講師である中村祐介先生にお土産として差し上げたのですが、なぜか着ていただいていないようで…。梅田の街中で着て歩いていても何ら違和感ないＴシャツなのにねー(笑)。下の写真で確認してみてください。

２０３高地中腹の土産店

２０３高地にちなんだＴシャツ

そう、土産店の店員と話をしていたときに、ここからの旅順の旅をがらっと一変させる出会いがありました。私は２０３高地を堪能した後、次に向かう観光地の思案をしており、店員に「どこそこに行くにはどれくらい時間がかかりますか？」とか聞いていたわけです。すると、店内の椅子に座っていた 40 代を少し超えたあたりであろう男性が立ち上がり、「うちの車に乗ってきな！」とか言ってくるわけです。まずこういう誘いの時は値段をふっかけてくる可能性があるので、一応値段を聞くと、「一般的な旅順観光ルートをすべて行ってあげるから 500 元払いなさい」とのことでした。うーん、値段的には妥当な気がする…。でも、乗っている最中に値段を上げられる可能性も中国ではあるわけです。そこで、悩んでいるふりをしながら、店員さんとこの男性の会話を聞いてみて、様子をうかがいました。その結果、まぁ、大丈夫だろうと判断し、男性の提案に乗ることにしました。ここからは運転手兼ガイド付きの、車によるツアーが始まりまし

た！やはり手慣れたもんで、どんどん様々な観光地を手際よく回ってくれます。この提案を受け入れたことは成功でしたねー。でも、みなさんは安易にこういう提案に乗らないでくださいね。自分の財産や命がかかっているわけですから、かなりの決断がいります。実際、誰もこないような山奥の塹壕跡で降ろされた時には、このまま何をされても世間にはばれないよなーと冷や冷やしながら観光していました。

旧関東軍司令部

旅順博物館

旧旅順ヤマトホテル

旧旅順師範学堂

連れて行ってもらったルートを紹介しますと、まず旧関東軍司令部に行き、その正面にある旅順博物館(月曜日は休館でした)の外観だけ見ました。その後、旧旅順ヤマトホテルを見ました。今は２階が旅行社で、１階が旅館になっているようです。おそらく招待所と書かれてあるところは日本人は泊まれなかったと思います。あんまり最近のことは知らないですが、10 年前ぐらいはそうでした。その付近に旧旅順師範学堂もあります。その後、愛新覚羅溥儀の旧邸(今は他の人が住んでいます)を見つつ、白玉山塔に向かいます。白玉山塔は、日露戦争終結後、連合艦隊司令長官の東郷平八郎と陸軍第三軍司令官の乃木希典が日本兵の慰霊のために建てさせた高さ 66.8m の塔です。この白玉山塔は旅順港付近の小高い丘の上にあり、ここにくれば旅順港を一

望できます。ここですがすがしい景色を見終わったら次は水師営に向かいます。乃木希典とステッセル中将が会見を行った場所ですね。この中では、中国語の音声で説明される日露戦争のスライド映像が流れているのですが、20 分の時間中の８割ぐらい寝てしまいました(笑)。運転手兼ガイドに起こされた後に向かったのは、東鶏冠山にあるロシア軍の塹壕跡です。そして最後に向かったのは、旧旅順最高法院です。かつての法廷を写真に収めることはできたのですが、罪人を死に至らしめた刑具が展覧されているところでは、さすがに写真は撮れなかったですね。ルール的には撮影可能なのですが、倫理的にこういう写真を撮るべきではないと思ったので。こうして冷や冷やドキドキのツアーが終了し、旅順駅で降ろしてもらいました。値段の割り増しもなかったです。よかったよかった。

愛新覚羅溥儀の旧邸

白玉山塔

白玉山塔から旅順港を臨む

説明碑を横に運転手兼ガイド

旅順港をバックに運転手兼ガイド

白玉山塔と砲台

水師営

ロシアの塹壕跡に残る銃弾の痕跡

ロシア人が飲んでいたビール瓶の破片

旧旅順最高法院の法廷

刑具展室(さすがに中はちょっとね)

こうして無事旅順ツアーを終えたわけですが、思いもよらず早く終了してしまいました。帰りの電車の時間は１７：１３だったのに、駅で降ろしてもらった時間は１５：００…。うーん、待ち時間が長いなー。旅順駅付近を散策しても１時間で済むのになー、と思った私は、長距離バスターミナルに向かいました。ちょうどの時間のバスがあれば乗って帰れるし、そこにたどり着くまでの間に散策もできるし、一石二鳥！結構迷って時間はかかりましたが、ターミナルに着くと、10 分後に大連行きのバスが発車するとのこと。おー、ジャストタイミングー。尿意は感じているがトイレに行っている暇もない。でも、乗るなら“今でしょ！”って思ってすぐに乗りました。いやー、長距離バスは快適ですよー。終着まで快眠できますからねー。出発するやいなや深い眠りに落ちていきました。

旅順港にて

旅順港から白玉山塔を臨む

荷台を引っ張るロバ

長距離バス(けっこう普通)

旅順から大連への２時間ほどの長い眠りを終えた私にはまだやるべきことが残っていました。大連の長距離バスターミナルは電車の大連駅の北側に位置しており、南側しか散策しなかった私には未知の空間でした。しかも、北側からやや遠回りをして大連賓館に帰れば旧ロシア人街をも訪れることができます。箱根駅伝の１区間走った以上に疲れていたであろう足腰に鞭打って、北側散策を始めました。まぁ、もちろんそんな距離走ったことはないわけですが(笑)。

やっぱりきれいですよねー、ロシア的街並み。日本建築にも良さはありますが、メルヘンな気持ちになれるのはロシア建築だと思います。メインストリートを歩き終わって、旧大連自然博物館前の噴水の前で座りながら息抜きをしていると、何か見覚えのある人物が前からやってきます。なんと、先ほど２０３高地で遭遇した日本人観光客と中国人ガイドの人でした。こういうこともあるもんですね。せっかくなので、中国人ガイドの人に「無座」のことを聞いてみました。すると、「無座」には「ガラガラだからどこにでも座りなさい」っていう意味もあるそうです。“勝手に寝台ベットを使ってやったぜ、ワイルドだろ～”とか思っていた自分は、実は当然のことをしていただけのようです。

北側にも様々な露店があります

旧ロシア人街跡

ロシア的な建築物

ロシア人街のメインストリート

マトリョーシカの氾濫

ちょっと怖くないですか？？

旧大連自然博物館

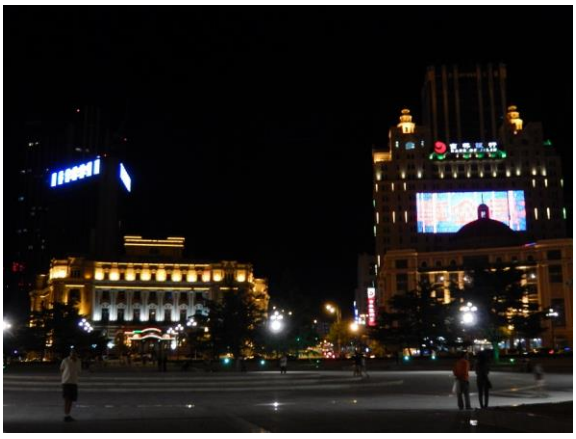
付近に旧日本建築もあり

メルヘンな気持ちに終わりを告げて、また約束の地、「大江戸」に向かうことにしました。折よく路面電車がやってきたので写真に収めました。英語科の池吉先生が見たら喜ぶかなーと思って撮影しました。なかなかしぶいですよね。車中も趣深く、明治時代の路面電車に乗っているような気持になりますよ。夏目漱石の世界観に浸れます。「大江戸」で肉団子定食を食べた後で、大連賓館の前で中国の方の過ごし方に目をこらしてみました。もう夜になって視界も狭くなっているのに、サッカーみたいなことをしていたり、子供と遊んでいる家族が多かったりして、楽しそうな空間になっていました。あと、おじいちゃんの中には中国の伝統的楽器(名前は知りません)を奏でて、周りの人に聞いてもらうリサイタルみたいなこともやっていました。癒されますね～。

カーブを曲がる路面電車

信号待ちしている路面電車

無難に肉団子定食



大連賓館付近のライトアップ

大連の旅は３日間でほぼ終了したのですが、４日目の出発までに大連港や本屋に行ったので、そのへんの写真も載せておきますね。大連港を見た後に大連賓館付近の旧満鉄大連医院を見に行きました。途中で久しぶりに路上での散髪風景を見ました。北京では見慣れていましたが、まさか大連で見られるとは。そして中国では有名な新華書店に行きました。そこで、中国の大学入試

用の地理の問題集を買いました！名前がすごいでしょ。「一本」ですよ！裏面にはブルース・リーも載っているし。そのブルース・リーの下に載っている言葉がまたすごい。「何か考えれば何かを練り上げろ、何かを考えれば何かを解き明かせ、何かを考えれば何かに答えを出せ」ですよ。

大連港フェリーターミナル

停泊していた船舶

近代的路面電車

伝統的路面電車

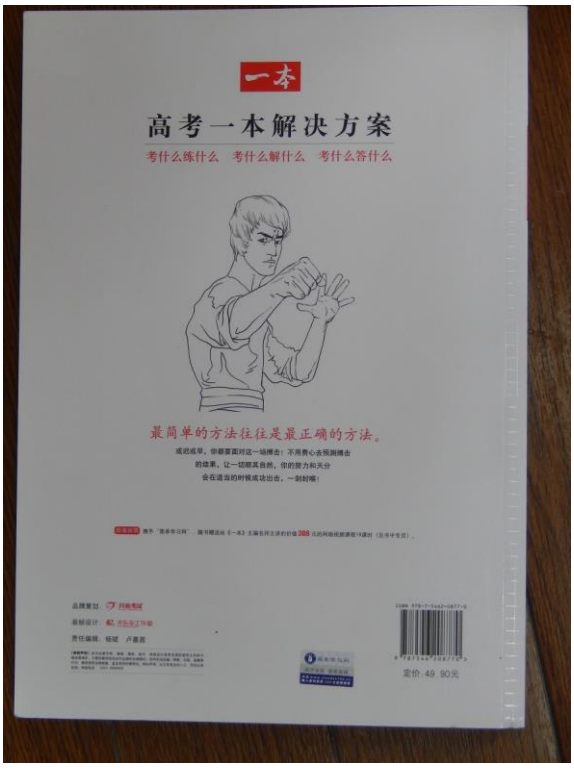
路上での散髪風景

いまどき珍しい三輪の自動車

旧満鉄大連医院

中国ではポピュラーな新華書店

大学入試地理の問題集(表)



大学入試地理の問題集(裏)

こうして、短くも長い大連の日々が終わりを告げました。この旅行記を読まれている方の中で大連に興味を持ち、また、中国に興味を持ち、中国を訪れる方が増えることを期待しています。あと、どーでもいいですが、帰国した翌日の 9 月 4 日はゴルフコースに出ることになっていました。なので、9 月 3 日は帰国した大荷物そのままに打ちっぱなし場に行き、夜の 12 時過ぎまで練習しました。そして翌朝 8 時に三田駅に集合してコースに出ると、台風の大雨＆雷のため途中で中止になりました。台湾→大連→ゴルフというハードスケジュールをこなせる体力があることに自分ながら感動です。それではまたの機会に！